

医療面接の基礎

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21時間
期間	後期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

医療の担い手の一員として、患者、同僚、多職種（専門職）や地域社会との信頼関係を確立するためには、相手のところや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本科目は、医療面接に必要な態度と基本的技法を習得するために、コミュニケーションの基礎、行動科学理論を用いたヘルスコミュニケーションおよび患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、基本的な理論を学んだ後、学生同士によるロールプレーを行い、理論の理解を深めることによって医療面接を効果的に行う基礎を身に付ける。

・教育成果（アウトカム）

1. コミュニケーションと医療面接の基礎を学修することで、対人理解・対人援助に関する基本的な知識と態度を習得し、相手の立場に立った援助ができるようになる。
2. 他者との信頼関係や他者配慮的態度について学修することで、チーム医療に寄与できるコミュニケーション能力を身に付け、実践することができる。
3. ストレスマネジメント概念を理解することで、自身のメンタルヘルスの保持増進のため必要な行動をとることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 4, 5

・到達目標（SBO）

1. 医療面接に用いられる基本的技術について説明できる。
2. カウンセラーに必要な態度について説明できる。
3. ヘルスコミュニケーションについて説明できる。
4. 行動科学理論をヘルスコミュニケーションへ応用する方法について説明できる。
5. ストレスマネジメントとセルフケアの重要性について理解し、説明できる。
6. 多様な価値観や人生観を有している人々を尊重する行動をとることができる。
7. 守秘義務について理解し、遵守できる。
8. 相手の理解力にあわせた説明をすることができる。
9. 自己を分析し自己理解できる。
10. コミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。
11. 看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。

12. カウンセリングの基本的な方法について説明できる。
13. 集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。
14. グループを形成する方法とそれを支援する方法について説明できる。
15. 心理社会的アセスメントの方法について説明できる。
16. 人的・物理的環境が健康に及ぼす影響について説明できる。
17. 家族の生活と健康障害との関連、疾病・障害が家族生活に及ぼす影響について説明できる。
18. 家族全体を捉えて査定（Assessment）する方法について説明できる。
19. 家族と地域社会とのつながりや関係性を査定（Assessment）する方法について説明できる。
20. 健康に関する教育、患者教育・家族教育の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。
21. 不安定な感情や情緒を安定させる基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。
22. 慢性的な健康課題を有する患者と家族への基本的な看護援助方法を説明できる。
23. ストレスへの前向きな対処（Stress coping）を促進する基本的な看護援助方法について説明できる。
24. 患者教育・家族教育の方法について説明できる。
25. 地域生活を支援するために、患者会や家族会が担う役割について説明できる。
26. 被災者及び被災集団への災害看護活動の在り方について理解できる。
27. 同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導の下で実践できる。

・ 授業日程

(矢) 東 2-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
9/6	水	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	コミュニケーションの基礎 1. コミュニケーションの種類を列挙できる。 2. メッセージとメタメッセージについて説明できる。 3. コンテンツとコンテクストについて説明できる。 4. ミスコミュニケーションについて説明できる。 5. コミュニケーションの機能と役割について説明できる。
9/13	水	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	カウンセリングの基礎 1. 広義/狭義のカウンセリングについて説明できる。 2. カウンセリングにおいては、なぜ「クライアント」と称するのかについて、説明できる。 3. カウンセリングが成立する条件について説明できる。 4. カウンセリングにおける倫理について説明できる。 5. カウンセラーの基本的態度とラポールについて、説明できる。

9/20	水	2	心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授 藤澤 美穂 助教	受容・共感(1) 1.傾聴する態度がなぜ必要かを述べる ことができる。 2.自分の話し方と聞き方のくせにつ いて検討できる。 3.ロールプレイにおいて対話してい る相手の感情の動きを推測できる。 4.推測した感情を自然な言葉で相手 に返すことができる。
9/27	水	2	心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授 藤澤 美穂 助教	受容・共感(2) 1.共感の段階について説明できる。 2.クライアントの性格的な傾向を推 測できる。 3.ロールプレイにおいてクライエン トに共感できる。
10/18	水	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	ヘルスキューションの理論を 理解する 1.カウンセリングに適したポジショ ニングを説明できる。 2.ヘルスキューションの定義 を説明できる。 3.ヘルスキューションの方法 について説明できる。
10/25	水	2	心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授 藤澤 美穂 助教	ヘルスキューションへの行動 科学理論の応用 1.事例を行動科学理論にあてはめて 検討し、介入すべき変数を抽出できる。 2.抽出した変数について、介入計画 を立てることができる。 3.介入計画に基づいてヘルスキュー ションのロールプレイができ る。
11/1	水	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	個人と環境の相互作用を理解する 1.生物-心理-社会モデルでのクライエ ントの理解について、説明できる。 2.クライアントの主訴に関連する情 報として、何を聞く必要があるか、 説明できる。 3.ジェノグラムを記載できる。 4.関与しながらの観察について、そ の重要性と必要性を説明できる。

11/8	水	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>臨床心理アセスメント</p> <p>1.医学的診断と臨床心理アセスメントの違いを説明できる。 2.アセスメント面接で確認すべき事項を挙げることができる。 3.面接法、観察法、検査法についてその概要を説明できる。 4.心理検査を用いたアセスメントのうち、ウェクスラー式知能検査の特徴を述べることができる。</p>
11/14	火	4	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>臨床心理面接(1) 精神分析、表現療法</p> <p>1.心理面接における治療契約について、説明できる。 2.精神分析の歴史と治療構造について、説明できる。 3.国内で多く実践されている表現療法技法を述べることができる。</p>
11/21	火	4	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>臨床心理面接(2) 集団精神療法、認知行動療法</p> <p>1.集団精神療法について、Yalom の治療促進因子を述べることができる。 2.認知行動療法の基本モデルを説明できる。 3.ネガティブな自動思考とその影響について、説明できる。</p>
11/28	火	4	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>臨床心理面接(3) 家族療法、家族心理教育</p> <p>1.クライアントとその家族の相互作用について理解し、家族への関わり的重要性や必要性を説明できる。 2.家族支援のための諸アプローチを理解し、クライアントや家族全体へと及ぼす効果について述べることができる。</p>

12/5	火	4	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>クライアントからの質問への応用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.提示されたケースに基づき、アセスメントのポイントを挙げるができる。 2.クライアントを詳しく理解するために必要な情報を挙げるができる。またその情報を引き出すための質問を挙げるができる。 3.クライアントからの質問に対し、その意図や背景を考慮した応答をすることができる。 4.明確化の技法を用いた応答ができる。
12/14	木	4	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>トラウマティックストレスの理解とストレスマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.災害等のトラウマティックな出来事後のストレス反応について、説明できる。 2.心理教育の効果と重要性について、説明できる。 3.惨事ストレスを理解し、支援者のストレスケアのポイントを挙げることができる。 4.ストレスマネジメントの重要性を説明できる。 5.心理的ストレスプロセスモデルを説明できる。
12/19	火	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	<p>態度分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.解釈モデルについて説明できる。 2.LEARN Model について説明できる。 3.Porter の態度類型について説明できる。 4.医療面接における態度分析のポイントについて説明できる。 <p>医療面接のまとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.医療面接の役割について説明できる。 2.医療面接のステップを説明できる。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	はじめての医療面接 コミュニケーション技法と その学び方	斎藤清二	医学書院	2000

・成績評価方法

定期試験の成績を 70%、演習への取り組みと提出物を 30%として評価する。

・特記事項・その他

本教科では、一般的な講義に加えて演習を行う。講義内で実施する演習課題は内容を評価して返却し、次回の講義内で解説する。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学習（予習・復習）をおこなうこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】
看護師（別表 3）：基礎分野 人間と生活・社会の理解

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD(BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac21.5 ZOMP CTO Education)	1	講義資料の作成